

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2019.9 vol.161

2019年度 鹿児島がん看護エキスパートナース研修を終えて

鹿児島医療センターでは、地域がん診療の拠点病院として、がん看護の質向上を目指し、平成23年度よりがん看護エキスパートナース研修を開催しています。

今年度は、7月29日(月)から8月2日(金)までの5日間の日程で開催いたしました。この研修は、がん患者・家族の苦痛やニーズを把握し、チームのなかでリーダーシップをもって看護実践できる知識・技術・態度を習得することを目的に、がん看護実践のリーダー的役割を担っている院外8施設11名、院内2名の計13名が参加しました。

研修内容は、がんの病態・診断・治療、近年のがん治療の動向、がんの集学的治療とその看護について理解できることを目標としています。また、がん看護の実践に必要な看護倫理の基本、がん患者・家族の全人的苦痛に対するアセスメントとケア、がん看護におけるコミュニケーションスキル、QOL向上のためのリハビリや口腔ケア、栄養管理、療養場所の選択と地域連携、退院支援について講義やグループワークなどが系統的に学べるようがん分野の認定看護師が中心となって企画しました。講師は、当院の医師・薬剤師・理学療法士・栄養士・心理療法士・退院調整看護師などがん分野に関する専門的な知識と豊富な経験を基に講義などを担当しました。また、特別講演として鹿児島大学医学部保健学科教授堤由美子先生による「がん患者の心の軌跡に寄り添うケアを求めて」というテーマでご講演もいただきました。

この5日間の研修を通して、がん患者・家族の心の揺れや苦痛を理解し、その人らしく人生を送るために必要な援助について、研修生それぞれが考えディスカッションしながら学び合う場となりました。研修生からは「自己の看護の振り返りや多岐にわたる様々な講義を受け自分の糧として実践に活かしていきたい」、「自部署での患者のケアに活かす内容ばかりで多くの学びがあった」、「現場でどうやって実践していこうかと考えながら取り組んだ、必ず部署で活かせるようにしていきたい」などの意見を頂きました。

今回参加された研修生の皆さんは、研修での専門的知識や技術の学びを自施設に持ち帰り、看護実践場でリーダーシップを発揮して活躍されることと思います。また、この研修でつながったネットワークががん看護における地域連携の一助となることを期待し、今後も地域がん診療連携拠点病院として、さらに充実した研修を企画・運営していきたいと考えます。

(文責：教育担当師長 松本 深雪)



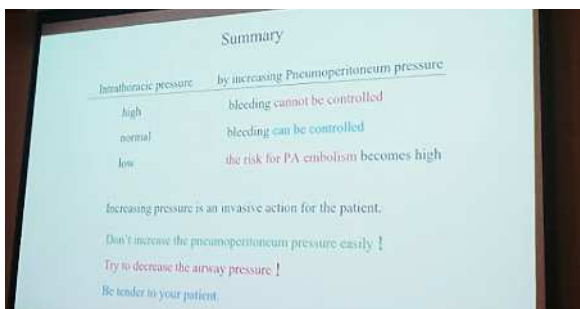
第1回 城山肝胆膵外科フォーラム

令和元年8月10日(土)、『第1回城山肝胆膵外科フォーラム～ラパ肝胆膵外科をエキスパートに学ぶ～』をTKPガーデンシティ鹿児島中央で開催いたしました。本会の趣旨は、地域がん診療連携拠点病院の要件達成としての連携医療機関との講演会開催です。講演会のタイトルは、『城山』、『肝胆膵外科』をキーワードとし、鹿児島県の肝胆膵外科、特に腹腔鏡下手術の現状を一般演題として募集した上で、腹腔鏡下肝胆膵手術のスペシャリストをゲストスピーカーとして招聘し、特別講演で聴講する形式としました。

フォーラムの流れとして、私からopening remarksを述べさせていただき、引き続き、一般演題として、鹿児島大学消化器外科学の川崎先生より腹腔鏡下肝切除、鹿児島医療センター外科の夢田先生より腹腔鏡下胆嚢摘出術、鹿児島大学消化器外科の蔵原先生より腹腔鏡下膵切除のミニレクチャーを、それぞれ質疑応答や本田先生のコメントを踏まえ、忌憚のない意見交換の場となりました。



特別講演は、座長を鹿児島大学小児外科学教授の 家入先生にお引き受けいただき、本田五郎先生より、『腹腔鏡下肝切除の広くて深い話』をたっぷり1時間 拝聴しました。広くて深い話だけあって、ラパ肝の内視鏡技術認定医の話、CUSAの話、肝切除=発掘 (excavation) という話、気道内圧と静脈出血の話 (Ann Surgに書かれていない秘話)、S7-8切除の話、等々盛沢山でした。



ラパ肝の気道内圧はnormalで肝静脈出血時は、気腹圧を上げるのではなく、まず、気道内圧をゼロ、つまり、麻酔科の先生に一時的に呼吸を止めてもらい、それから気腹圧を上げる、この手順が大事だということのようでした。

締めくくりとして、鹿児島大学消化器外科准教授の前村先生にclosing remarksをいただき、集合写真を撮って成功裏に終了しました。60名のドクター、メディカルスタッフに出席いただきました。

今回のフォーラムを通じて、本田先生の経験と実績と外科医としての熱意を背景とした講演を拝聴できた絶好の機会であったと感じましたし、鹿児島県の肝胆膵外科を愛する外科医の情熱に触れることができました。Thank you very much. See you next year!

(文責:外科主任部長 菰方 輝夫)



2019年度
第1回

さつま皮膚外科塾 を開催しました

去る8月3日に、鹿児島医療センターで臨床研修を行っている研修医・診療看護師を対象にさつま皮膚外科塾を開催いたしました。本講習は2015年から毎年8月、2月に当科主催で行っており、本年は「整容性に優れ、より痛みの少ない縫合手技」を身につけるため、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)との共催により、真皮縫合をテーマに行いました。

まず松下茂人(皮膚腫瘍科・皮膚科部長)の開会挨拶に続いて、真皮縫合の基礎やコツについての講義を行いました。動画を用いて実際の手指の動きを解説した後に、参加者全員がシリコン製模擬皮膚と4-0 PDS IIを使って真皮縫合の実習を行いました。創縁を外反させるためには縫合針をどこに刺入するか、縫合針の経路をどのように確認するかなど、講師が一人一人に指導しながら実習をすすめていきました。基本的な真皮縫合に慣れてきたら、鑷子だけでなくスキンフックを用いて皮膚を把持するなど、より愛護的な縫合手技を学びました。参加した研修医、診療看護師の皆さんは非常に集中されていて、あっという間に2時間が経過しました。

毎年の恒例となった今回も多くの初期臨床研修医、診療看護師に参加していただきました。真皮縫合は簡単そうに見えて奥が深いものですが、このたびの皮膚外科塾が、研修医の皆さんの翌日からの診療に役立っていることを祈念します。最後に、今回無事に開催することができましたのは、院内各部署および共催、後援各所のご協力の賜とっております。末筆ながらこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

(文責:皮膚腫瘍科・皮膚科 レジデント 小森 崇矢)



診療科紹介

— 脳血管内科 —



かねてより大変お世話になっております。

当科は診療科名の通り脳血管障害に特化した診療体制をとっており、脳神経外科とともに脳卒中センターの一角を担っております。まず当科では本年度、スタッフの大幅な異動がありましたため、連携先ご施設の方々には、これまでと同様に脳血管障害患者の受け入れが可能かどうか等、ご心配、ご迷惑をおかけしたと存じます。4月以降も脳卒中センター長兼脳血管内科部長として松岡は留任し、いずれも脳血管障害急性期治療を専門としている高口剛医師、有水琢朗医師、池田め衣医師の三名が新たに着任しました。これまで同様脳神経外科との協力のもと24時間365日いつでも専門医が直ちに診療し、t-PAなど急性期治療を迅速に行える体制で脳血管障害診療にあたっております。また医療機関や救急隊から直接ご連絡頂けるように「脳卒中ホットライン」も継続しております。お陰様で本年度も当科の救急患者さんは増加しており、8月下旬までに既に300例を超える救急入院を受け入れさせて頂きました。引き続き脳血管障害が疑われる患者さんがいらっしゃいましたらいつでもご遠慮なくご紹介ください。

急性期脳梗塞では、t-PA静注療法や、t-PAのみでは効果が期待しにくい大血管閉塞例に対する血栓回収療法(カテーテル治療)など、近年の目覚ましい治療法の進歩に伴い、劇的な回復、良好な転帰が得られる症例も増えております。またMRI等の臨床所見によっては、これまでt-PA禁忌であった睡眠中発症などの発症時間不明の脳梗塞に対するt-PA施行が可能となったこと、発症24時間までの血栓回収療法が許容されるようになったこと、など治療適応も広がっております。高齢化社会による患者さんの増加も相まって益々脳血管障害救急治療の需要が高まることが予想されます。

脳卒中・循環器病克服5カ年計画や、昨年暮れに成立した「脳卒中・循環器病対策基本法」を背景に、脳卒中予防対策の強化と共に脳卒中診療体制の構築、見直しが求められています。この中で現在、脳卒中学会主導で専門的脳卒中センターの認定が進められており、当科でも既にこの認定申請を済ませており、地域、ならびに鹿児島県全体の脳卒中診療に役立てるよう、続けて努力して参ります。

なお、急性期治療後は早期に紹介元の先生にお返しできるよう努めておりますが、継続的なりハビリテーションが必要となる患者さんも多く、回復期や維持期のご施設にも大変お世話になっておりますので改めてこの場を借りて感謝申し上げます。

また当科外来では脳血管評価や脳梗塞危険性の評価、治療方針の検討なども積極的に行っております。血管危険因子や心房細動などをお持ちの患者さんにおける評価等もお気軽にご紹介下さい。

今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責：脳卒中センター長・脳血管内科部長 松岡 秀樹)

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 蘭田・丹後田・西辻・吉永・迫田・椎原・吉留・久保・櫻木・田辺・山之内・山口

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・菊永・杉本・児玉

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

